

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年
6月18日
第132号

アジサイ（アジサイ科）

6月の花といえば、やはりアジサイですね！園内でも、通用口横、管理棟横、ひょうたん池横で見られます。日本のガクアジサイが原種といわれ、鎌倉時代から園芸化され、中国に渡り、更にヨーロッパに渡り、今日のセイヨウアジサイとなって、日本に戻ってきました。花序は手毬形で花色も多くあり、多くの園芸品種が作り出されています。花卉に見えるのはがく片で本当の花弁は非常に小さく、見つけるのに一苦労します。葉が繡球花（シュウキュウカ）という生薬となり、中国でマラリアの治療に使用されていましたが、hydracyanosis Aという青酸配糖体を含むことがあるので、けっして食べてはいけません。日本料理でシソの葉のようにして出されることがあるので、要注意です。

クマツツラ（クマツツラ科）

ハーブで使われるバーベナ、バーベインの名のほうに馴染みがありますね！園の第一圃場で枝先に細長い穂状に付ける、淡青紫の小花が見られます。南ヨーロッパに分布し、ヨーロッパアジア、北米、北アフリカ、オーストラリアなど温帯の日当たりの乾いた草地などに広く生え、日本でも北海道を除く各地で見られます。古代には神事に使われ、キリストの出血を止めた薬草として神聖視されました。開花時の地上部を乾燥させたものから、生薬の馬鞭草（バベンソウ）となり、中医学では清熱解毒、活血化瘀、利水消腫を目的に、外感発熱、黄疸、婦人病、腫れ物などに使用されます。ヨーロッパの民間薬では、解熱、鎮痙、利尿、消炎、抗菌を目的に使用されます。